



オムソーリ

Vol.6

医療法人社団洋精会 広報誌
社会福祉法人宝生会

2015年5月26日発行

URL : <http://numaog.or.jp/>

◇沼尾病院

◇特別養護老人ホーム敬祥苑

◇老人保健施設白楽園

◇グループホームカトレア

「オムソーリ」とは？

社会福祉の先進国スウェーデンに古くからある人間愛に基づく言葉 Omsorg(オムソーリ)とは本来(誰かのことを)気にかける、或いは悲しみ分かち合う、(お互いを)かばい合う、面倒をみるということの意味する。これはあらゆる看護、介護、養護という概念を包括するという。



白楽園のリハビリ風景



敬祥苑ホール
午後のひと時

カトレアでの余暇風景

生活習慣を取り戻す——老健へ

「いち、に、さん、しい…」
特養見学に加えて、介護老人保健施設も訪ねた。リハビリの真の真中であつた。長期入院した高齢者は、ベッド生活で足腰が弱って歩けなくなったり、生活習慣の混乱が原因で軽い認知症状態に陥るといふ。定期的な運動をおこないながら落ち着きを取り戻そうというのだ。別の部屋では、食べ物をのみ込む嚥下反射をよくするために、早口言葉の訓練をしていた。嚥下反射が脳梗塞を起こしにくくさせるのだそう。また、形があるものをのみ込めなくなると、老化は一気に加速するという。そのため、この施設では口腔ケアにも力を入れていた。



ごあいさつ

医療法人社団洋精会 会長
社会福祉法人宝生会 理事長



沼尾 成美

皆様こんにちは、平成二十七年
度がスタートいたしました。沼尾
グループに対しましては、日頃か
らご理解とご協力を賜り、厚く御
礼申し上げます。

さて上記の写真は本年三月十日
号の週刊誌FLASHより取材を
受け、掲載された写真と、記事の
一部であります。
自分の親に万が一が起こった場
合どうすればいいのか。

企画の趣旨は高齢者施設に関す
る特集記事であり、介護が必要
になったご家族への基礎から学ぶ、
介護施設入所までのマニュアル企画
としてとりあげたものでした。

当法人、洋精会・宝生会グルー
プで運営している施設も、それぞれ
取材に応じ協力いたしました。

どのような場合に、どんな施設
に入所でき、その分類の特性を解
説し、紹介された内容の記事となつ

ています。

この取材を受け入れたのも、川
原経営総合センターを通して、
NPO法人「老人ホームを選ぶ支
援会」の推薦、依頼を受けてのこ
とであり、写真撮影にあたっては、
プライバシーの保護に配慮しつつ
利用者様のご協力を得られたこと
を、ありがたく思いました。

入所施設の選び方も、入所条件
となる介護度や、その状態、料金シ
ステム、目的の内容もさまざまです
が、お一人ひとりにあつた必要なサ
ビスを相談され、総合的に安心でき
る場所を選択できればと思います。

この四月から段階的に介護制度
が変わり、多様な高齢者の皆さま
の現状やニーズに対応した支援を
普遍的に提供できる仕組みづくり
が欠かせなく求められています。

医療と介護の対応の充実を含め、
多職種協働で、今後も良質なサー
ビスの提供ができるよう真摯に取
り組んでまいります。

「安心して老いることのできる地
域づくり」に参画しながら、グルー
プとして地域貢献活動の幅を広げ
ていければと考えます。

今後ともご指導ご支援を賜りま
すようお願い申し上げます。

はくらく



第22号
社会福祉法人 宝生会
老人保健施設 白楽園

お仲間入りにあたって

老人保健施設 白楽園 施設長

井上 史央

洋精会ならびに宝生会各位におかれましては、日ごろより老人保健施設「白楽園」の運営に多大なご支援・ご協力をたまわり、心から御礼を申し上げます。

また、私自身、開設当初より築かれてきた大きな土台に甘えさせて頂く形ではありますが、ご利用者様にとってより良いケアができるようにとめてまいりますので、今後ともよろしく願います。

さて今年度は、2025年の「地域包括ケアシステム」実現に向けて、変革の第一歩を踏み出す年となります。

「地域包括ケアシステム」とは、要介護高齢者の方々が、住み慣れた地域で医療、介護、介護予防、生活支援、住まいの各種サービスを一体的に利用できるようにする体制のことです。こうしたシステムの構築を旨とした動きの中で、より一層老人保健施設の役割が問われているように思われます。

医療保険制度と同様に、介護保険制度も激動の時代を迎えようとしているわけですが、医師が常駐しているこ

と、看護師が24時間いること、理学療法士や作業療法士などの専門職がいることで、積極的にリハビリを行い、生活機能を向上させて、自宅へ復帰するお手伝いをさせて頂きたいと考えています。

もとより浅学非才ではありますが、基本理念である「オムソーリ」人間愛の精神のもとに、一層の精進をいたす所存でございますので、ご指導ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

自分らしく、笑顔での生活に繋げる

リハビリ室 室長

理学療法士 瀬戸 章弘

私は白楽園でリハビリテーションの業務を携わり、今年で15年目になりました。当初は新人常勤1人での環境に慣れずに日々の業務で追われている（今でも追われています）毎日でした。今でも老人保健施設での仕事にやりがいを感じています。

これから老人保健施設に求められることは医療を初め、失われた機能や残存している機能の向上はもちろんのこと、自宅での生活を安心して続け

く喋り、よく笑い、介護職員はもちろん、ご家族でさえ驚いていたそうです。施設内で把握している情報だけでは知り得ない状況が、職員付き添いのもとで一時帰宅することにより、新たな情報を自分の目で得られる事が出来た素晴らしい試みだったそうです。施設へ戻られてからの利用者様に変化が見られました。口数が増え、作業療法等にも積極的に参加されるようになったようです。職員の提案で実施された試みだったようですが、結果「利用者本位」に繋がったのかもしれない。

二年間を振り返って

一般棟介護 増淵 舟

私が白楽園に入社して今年の4月より3年目に入ります。入社当時は業務内容を理解するのが精一杯だったのを今でも記憶しています。私が入社一年目の時に、プリセプター制度があり、先輩の職員がマンツーマン

ンで仕事面や精神面を支えてくれる制度に、私はとても助けられました。仕事面ではプリセプターの先輩職員だけでなく、その他の先輩職員の方々に、積極的に聞きに行き、わからない所はご利用者のケース等の生活歴や病名を調べ、ご利用者に対してどういう対応をすれば良いのか、どのような声掛けをすればコミュニケーションが図れるかを教えていただきました。精神面では、仕事面以外のプライベートの事でも親身になって相談ののっていただけで、気がとても楽になったのを今でも覚えています。二年目に入り、私の目標はレクリエーションの向上です。二年目よりアクティビティ委員会に所属し、委員長の先輩職員の方と案を出し合ったりして様々な季節に軽喫茶等を開き、ご利用者の方々が楽しそうだったのを覚えています。その他に世界遺産やご利用者の年代に合った著名人、偉人の写真や、漢字クイズ等をファイリングし、脳の刺激になるのではと思いついた所、ご利用者の方々と先輩職員の方より好評だったと聞いています。私は一年目、二年目ともに認知症専門棟にて勤めさせていただきましたが、今年の四月より一般棟での新しい業務が始まりました。業務内容が多少変わり、戸惑うこともありましたが、日々、仕事に精進してまいります。これからどうぞよろしく願います。

られる多機能（予防支援、認知症や口腔ケアの対応やご家族の介護負担軽減策など）を有することであると考えると思います。私の目標は二つあります。一つは白楽園が老人保健施設の役割である自宅生活支援機能を成熟させていくことです。もう一つは地域での生活を継続・計画されるうえでのサポートや情報交換を密に行える開かれた施設にすることです。

現在、白楽園ではリハビリテーションの提供を専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が常勤・非常勤を合わせて11名で携わっています。15年の経過の中で、パワーリハビリテーション設備導入や訪問リハビリテーション事業の開始など新しい取り組みも行ってきました。入職当初と比較するとソフトもハードも充実しました。今年度は、短期間の入所でご自宅生活に必要な機能や動作を獲得して頂けるような取り組みや地域支援活動などを実施したいと考えています。

今後も地域に根差し、皆様のご希望に添える施設作りを目指します。住み慣れた地域での生活に皆様の笑顔を増えられるように…。

全国介護老人保健施設大会

一般棟介護

副主任 手塚 夕紀恵

平昨年10月、岩手県盛岡市で行わ

れた全国介護老人保健施設大会に参加させていただきました。白楽園では「介護記録用紙の改善を試みて」演題発表を行いました。1. ケアの継続 2. 職種間における情報の共有 3. 状態変化に際した援助、評価、計画変更ができることを研究目的とし用紙改善を試みました。事例結果報告では、要因を記入することにより、ケアの根拠となるところが明確になった。また、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）におけるD（実行）の部分で個人記録に多く残されるようになり、評価にも役立つ等、発表を通じて更なる質の改善、向上に努めてまいります。その他、全国の老健施設での事例発表を聞く機会は大変貴重であり、同時に興味深いものでした。

私が特に興味を引いた発表内容は『在宅一時帰宅』です。ある施設では、在宅復帰予定の利用者様と担当の介護職員が付き添いで一緒に一時帰宅を行う試みを始めました。対象となったある女性利用者様は、施設生活の中で口数が少なく、控えめで何事にも消極的な生活を送られていました。ところが一時帰宅を行った際、全く違う一面を見せました。付き添った介護職員に笑顔で語りかけたそうです。「私は編み物より料理の方が得意なの。」介護職員には、その利用者様の特技は編み物という情報しもなく、初めて聞いた言葉でした。それだけではなく、物事を自分で選択し、よ

平成二十六年 行事風景



7/2七夕会
野沢保育園児による歌やお遊戯披露

9/17敬老会
国本中学校吹奏楽部による演奏

12/24クリスマス会
園児さんたちによる太鼓演奏

12/26もちつき会
『ヨイショ!』



8/23納涼祭
第10回記念、大納涼祭として、過去最大級4時間超のお祭風景



3/2ひなまつり会
秋輝太鼓の皆様による太鼓の演奏を披露



11/15運動会
玉入れ風景

四月	お花見外出
五月	菖蒲湯
七月	七夕会
八月	納涼祭
九月	敬老会
十月	運動会
十一月	柚子湯
十二月	クリスマス会
一月	もちつき会
二月	新年会
三月	ひな祭り

平成二十七年 年間行事予定

誕生会
二・三階（第二水曜）
隔週
書道・手芸クラブ
二階（木）三階（金）

毎月行事

特別養護老人ホーム敬祥苑

入所の基準・手続きが 変わりました

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）は、ご自宅等で介護を受けながら生活を続けることが困難な方が、二十四時間切れ目がなく、手厚い介護環境のもとで生活をしていただくことを主な目的とした介護施設

です。このことは、昭和三十八年の老人福祉法施行により特別養護老人ホームが法的に位置づけられて以来、平成十二年度以降の居宅介護サービスが拡充した現在の介護保険制度の下でも、居宅生活が困難な様子にある方々にとって実りある生活を提供する施設として、また長期に亘るセーフティネットとしての役

割を担う事業施設として、私たちに課せられた使命と自覚をしております。

介護保険制度が始まってからは、「要介護」認定そのものが入所施設利用の基準となりました。その経過の中で、特別養護老人ホームにおいては平成十五年度に入所決定過程の透明性・公平性を確保するために全国の都道府県において指針が策定され、私たち敬祥苑もその内容に従って「本人の状況（要介護度・認知症による日常生活自立度）」「在宅サービス利用度」「主な介護者や家族等の状況」の項目から構成された調査票を申込みの際に提出いただき、評価点の高い方から優先に入所をいただいております。

このたびの平成二十七年年度の改正においては、更に「要介護三以上の要介護者」及び、「居宅での日常生活継続が困難なやむを得ない事由がある要介護又は二の方の特例的な入所」の区分が設けられることとなりました。このことは、「医療介護総合確保推進法」の成立を受け、指定介護老人福祉施設については、限られた資源の中で、より入所の必要性が高い方が入所しやすくなるよう、居宅での生活が困難な重度の要介護高齢者を支える施設としての機能重点化を図ることからのものであります。

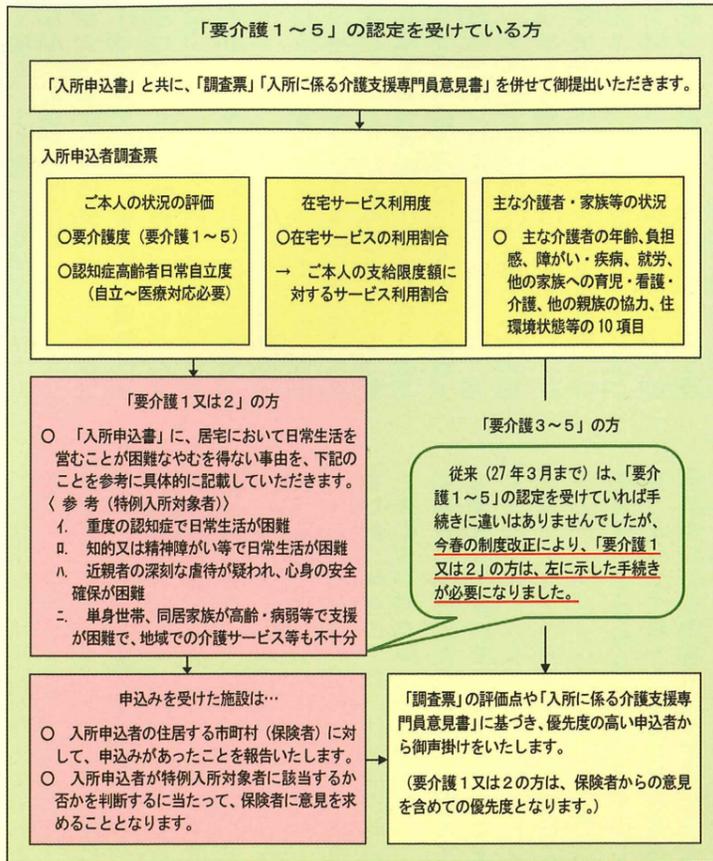
介護事業の先駆者に、榎本憲一氏という方がいらっしやいます。榎本氏は、介護保険制度が施行される十一年以上も前の昭和六十三年に北九州市で三六五日二十四時間在宅介護サービスを提供する事業（コムスン）を創業。後にグッドウィルグループが資本参加するに至り、榎本氏は離れる。を立ち上げた方であり、榎本氏が逝去（平成十五年三月）される約一ヶ月前に「惜別の言葉」を遺されております。

そのなかで、「公的介護保険は、日本の高齢者・障害者におおきな福音をもたらすものであり、そのことを国民全体で、保険料という拠出において、それぞれが連帯と共生によつて行うことは、日本国民の優しい英知であろうと思えます。」の二節があります。現在の介護保険制度は、連帯や共生、英知を具現しているのだらうか。介護保険事業に身を置く者として、自問してまいります。

そして、文末に近いところに、「私は、介護という仕事が、人を支え励まし、誇りある人生の結末に役立つことを信じております。」の一文があります。最期を前にして遺された御言葉に、改めて深く高潔な思想性を感じるとともに、私自身、襟を正される思いであります。



施設長 赤羽 基行



認知症対応型共同生活介護 グループホームカトレア

介護報酬改定に思う事

管理者 阿久津 哲

今年の4月、介護保険法の一部が改正され、それに伴い介護報酬単位の見直しが行われました。

今回の介護報酬見直しについて厚生労働省は、「介護保険制度を持続可能なものにしていく為、更に高齢者が出る限り住み慣れた地域で尊厳を持って自分らしい生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指す」とし、今回の改定では、介護職員の処遇改善・物価の動向・介護事業所の経営状況・地域包括ケアの推進を踏まえた、「マイナス2.27%の改定率とする」というものでした。

8%に引き上げられた消費税率ですが、10%の引き上げが先送りされた影響でしょうか、介護報酬単位の引き上げ又は維持に直接結び付かなかった今回の改定に対し、少々残念だった思いは殆どの介護従業者に共

通のものだと考えます。

しかしながら、「地域包括ケアシステムの構築・高齢者が住み慣れた地域で尊厳をもって生活を送れる・・・」という部分に於いては、今後の要介護者・認知症高齢者の人口の増大を見据えた場合、介護保険の財源の拡大が困難であることや、少子化に伴った介護人材確保の困難といった情勢から、避けては通れない事柄であることにも頷かざるを得ないでしょう。このような中、介護の仕事に携わるものとして、今後の現実に対して、常に注意深く見ていく目を養っていく努力が重要になるのだと思います。

さて、地域包括ケアという言葉は、国会答弁にもしばしば登場するようになった感がありますが、カトレアのようなグループホームがどのような位置づけとして機能を果たしていくべきかについて、具体的な部分はまだまだ今後の課題と言えると思います。このような中で、私たちの事業活動が結果として、地域の高齢者介護・福祉に貢献できるものである



よう努める事が、施設やサービスの存在意義として、地域の皆様の認識や信頼に結び付くのだと考えます。

認知症介護の仕事に携わって

介護職員 山本 貴子

認知症介護の仕事に携わり、御利用者様の生活や思いなど、様々な場面に触れさせていただく機会を頂きました。

皆様が進んでこられた時代や、経験された事柄を教えてください、自分も沢山の事に気づきを得ることができました。

利用者様の中には、年齢を重ねられ、今まで出来ていた事が出来なくなったり、忘れていく事への不安を訴えられる方がおられます。そのような場合は、利用者様の表情を受け止めて、その瞬間の思いを

くみ取れるよう努め、日常生活が安心でき、楽しくその方らしく過ごしていただけのような介護を行っていただけるよう心がけていきたいと考えます。

利用者様が、カトレアで過ごした事が良かったと思っていたら、もう、日々努力を重ねていきたいと思えます。

暮らしのひとつ

介護職員 伊藤 裕志

現在、グループホームの御利用者様は、日常の家事行為が困難になる方が多いのですが、少しでも可能な事を行って頂く事で、生活の活発さ保って頂けるよう努めたいと考えます。



洗濯物たたみ

医療法人社団 洋精会



平成23年4月開設

所在地 宇都宮市星が丘1-7-10
TEL: 028-678-9901
FAX: 028-678-9933

小規模多機能型居宅介護
よしのいえ



沼尾病院

昭和13年7月開設 所在地 宇都宮市星が丘1-7-38
TEL: 028-622-2222
FAX: 028-624-2228



平成8年11月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2141-5
TEL: 028-665-6511
FAX: 028-665-6311

めまお内科

外来診療
内科・外科・神経内科・循環器内科・胃腸内科
皮膚科・肛門内科・整形外科
入院施設 医療・介護療養病床
通所リハビリテーション
訪問看護ステーション星が丘
療養通所介護センターほし
ケア工房野の花(居宅介護支援事業)
ヘルパーステーションめまお(訪問介護)
地域包括支援センターきよすみ

洋精会・宝生会施設及び事業について

社会福祉法人 宝生会



平成16年4月開設

認知症対応型共同生活介護

所在地 宇都宮市星が丘1-1-28
TEL: 028-650-7345
FAX: 028-621-0222

グループホームカトレア

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
訪問介護
通所介護
居宅介護支援事業
生活管理型短期宿泊事業
生活支援型ホームヘルプ
生きがい対応型
デイサービス
配食サービス
地域包括支援センター



昭和62年4月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2141
TEL: 028-665-5633
FAX: 028-665-5635

特別養護老人ホーム敬祥苑



介護老人保健施設
短期入所療養介護
通所リハビリ
居宅介護支援事業
訪問リハビリ



平成4年4月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2140-2
TEL: 028-665-7171
FAX: 028-665-7177

老人保健施設白楽園